

## 令和2年度第3回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和3年3月10日（水） 14：00～15：47

場 所：江別市民会館 小ホール

出席委員：川上誠一委員、金子正美委員、岡本収司委員、新田雅子委員、  
尾形良子委員、藤本直樹委員、岩村ヒロ子委員、田原久美子委員、  
岸本佳廣委員、森田弘之委員、大鹿琢委員、腰原久郎委員、  
三ツ井瑞恵委員（計13名）

欠席委員：中井和夫委員、栞重理香委員（計2名）

事務局：企画政策部西田次長、健康福祉部伊藤次長、政策推進課堂前課長、  
中住主査、鈴木主査、北島主任

その他：生涯活躍のまち開設準備室小林副室長、明石コーディネーター、  
高橋サブコーディネーター

傍聴者：0名

### 会議概要

#### 1 開会

#### 2 会長代理指名

川上会長より金子委員を会長代理として指名。

#### 3 議事

##### （1）生涯活躍のまち整備事業の概要について

事務局から説明

- ・資料2 生涯活躍のまち整備事業の概要

#### 【質疑】

なし

##### （2）施設の整備状況（工事の進捗）について

岡本委員から説明

- ・資料3 施設の整備状況（工事の進捗）について

#### 【質疑】

##### ○三ツ井委員

子育て支援関係として、「あそびの会」との連携が含まれており、就学前の

子どもや小学校低学年に対する支援は手厚く行われている印象がある。一方で、江別市には学校に行けない中学生や高校生の居場所が少ないと感じている。

現時点においては、ターゲットの中に中学生や高校生が含まれていないと感じたので、そのような子どもがいることを覚えていてほしい。「あそびの会」を就学前の子どもや小学生だけではなく、間口を広げられるよう意見として述べさせていただく。

○岡本委員

現在、中学生や高校生をメインとして考えているものはないが、小さい子どもが集まる場に、例えばボランティアとして中学生や高校生に来ていただくことは可能だと思う。中学生や高校生が小さい子どもと遊ぶことで、その人にとっての居場所になることもある。なお、中学生や高校生の居場所づくりについては、「ココルクえべつ」のみならず地域全体の課題として捉えるのがよいのではないか。いずれにしても、意見として今後運営の中で考えていきたいと思う。

○川上会長

他に質問、意見はないか。

○尾形委員

福祉避難所は、生活施設のように使用することが大切だということがこれまでの災害からの教訓とされてきた。

就労支援A型ではレストランやパン工房、特養では会議室と施設の一部を利用との説明があったが、通常は施設をフルで使っていると思うので、災害時には、福祉避難所の一部の機能を担うということによいか。

○岡本委員

生活の場として十分な機能を提供出来るかという点と厳しいと思う。緊急避難的に寝る場所や食べる場所を最低限確保することが必要だという時に利用いただくことを想定している。一般の避難所を含めて快適性も求められている時代になっているので、その点では十分とは言えないかもしれない。

なお、市に対して最大何人まで受入可能か報告することになっており、A型では30名、特養は20名程度と報告している。どのような方がいるかにもよるが、実際に最大限受け入れるとなると限定的な使い方になってしまう可能性がある。

○川上会長

他に質問、意見はないか。

○森田委員

7月中旬に内覧会という説明があったが、可能ならば工事が落ち着いた段階

で当協議会の委員で見学会が出来ると具体的にイメージがつくと思う。他の委員の意見を踏まえて、検討いただきたい。

○川上会長

施設見学について提案があったので、岡本委員や各委員と相談して日取りを調整し、見学をさせていただくということで良いか。

○各委員

(了)

○事務局

森田委員の提案について、川上会長が話したとおりである。ひとつの方法として、次回の協議会を現地のスペースを借りて開催することも考えられるので、事業者と相談させていただく。

○川上会長

他に質問、意見はないか。

○各委員

(なし)

### (3) オープン後の取組みについて

事務局から説明

・資料4 オープン後の取組みについて

### 【質疑】

○金子会長代理

このような取組があるのは良いことだと思うが、この経費は参加者が支払うのか。あるいは、市からのサポートがあるのか。

また、民間の事業者がこの拠点で活動したい場合、申込を行えば実施出来るのか、またその際の費用負担はどうなるのか。

○事務局

地域交流事業についての経費は江別市が策定した江別版生涯活躍のまち構想に基づくソフト事業の取組なので、市の予算で経費を負担する。さらに、事業者も一部負担していただく。

次に、民間団体等から活動の提案があった場合、内容について事業者と共に話を伺い、出来るものは実施していきたい。

○金子会長代理

市が判断するのか。

○事務局

提案の内容を伺い、市の共生のまちづくりの視点があるかなどの観点で検

討し、事業者とも相談しながら、取り組めるものについては積極的に取り組んでいきたいと考えている。

○川上会長

この件について、補足はあるか。

○事務局

民間の事業者からの申出については説明したとおり、共生のまちづくりに資すると判断した場合は、市が主体的に事業者と相談して決めていく形になる。また、営利目的などで申出があった場合は、社会福祉法人の施設で出来るかの判断が必要になってくるため、市の判断ではなく事業者と相談した上で、このエリアで出来るものなのか判断する。具体的には申し上げられないが、現時点ではそのような状況と理解していただきたい。

○川上会長

他に質問、意見はないか。

○岸本委員

オープン後の地域交流事業は、事業者が主体となるのか、それとも市が費用を負担しているコーディネーターが主体となって行っていくのか。

○事務局

今後の地域交流事業については、ワークショップで出されたアイデアを中心に実施していくことになる。ワークショップは、コーディネーターに協力をしていただきながら進めてきた経緯があるので、引き続き委託事業として市が主体となって実施していくことになる。

○岸本委員

確認だが、コーディネーターは事業者から費用が出ていて、ソフト事業の内容は市の委託事業として受けるという形なのか。

今年7月、8月にオープンする中で、ソフト事業は来年度だけではなく、実質的に2年から3年かけて実りのあるものになっていくと思うが、コーディネーターも同様に複数年携わることになるのか。

○事務局

ワークショップで出されたアイデアの事業化については、市の委託事業としてコーディネーターの協力をいただきながら進めていく。コーディネーターは市が雇用しているのではなく、事業者である日本介護事業団の任用となっている。

来年度については、オープンが7月頃となることから、交流事業も実質的に下半期中心になるので、来年度がゴールではなくスタートという思いで年々より良いものに仕上げていきたいと考えている。

○川上会長

これからこの事業が進んでいく。最初は大麻地区から始まり、自然と波及していく効果も期待される。事業としては市の事業で、委託業務になる。年を追うごとに発展するような形、さらにコーディネーターにも深堀が出来る形で事業が進むことを期待する。

#### (4) ボランティアの募集と施設の地域開放について

岡本委員から説明

・資料5 ボランティアの募集と施設の地域開放について

#### 【質疑】

##### ○藤本委員

ボランティアに関しては、地域住民などに加えて市内に4つある大学の学生や教員の得意分野や専門知識を大いに活用出来ると思う。すでに江別市役所と市内4つの大学では「えべつ未来づくりプラットフォーム」という包括的な連携の協定も結ばれている。教員向けに広く周知し、大学を動かすためにはプラットフォームとの連携も模索するのがよい。

また、学生ボランティアについては、5年前から開始している「ジモ×ガク」を使うなど、既存の枠組みも活用されると非常に効果が上がると感じている。

なお、本日紹介いただいたオープンの中身が拠点施設に来てもらうという一方向の動きが中心となっているように見受けられる。商店街や公園、大学を使うなど拠点の外に出て行き、生涯活躍していただける仕組みをこれから考えていくと良いのではないか。そのアイデアが出揃っていないならば、知恵を出すので引続き相談させてほしい。

##### ○岡本委員

大変心強い言葉で有難い。

これまで個別に先生にご相談してきたが、来年度以降は正式にプラットフォームへご相談し、本格的な連携について具体的に考えていかなければならない。

また、地域に出ていくことも必要だと思っている。先ほど事務局から説明があったように今後の取組の中で、多世代交流サロンをエリア内で行うことを前提に考えているが、商店街の中を会場にしてブックストリートに合わせてサロンを行うなど様々な取組を組合わせて行うことを考えている。

##### ○金子会長代理

藤本委員の指摘は重要な意見だと思った。

江別市生涯活躍のまち形成事業計画を見ると江別市の特色は4つの大学があり、大学のまちだということが書いてある。しかし、今日のプログラムの

中には一切大学が出てこず、学生との協働も全くない状況である。江別市程度の規模の都市で、4つも大学があることは、北海道だけではなく全国的にも非常に珍しいので、特色のあるポイントだと思う。

パンを作ることやヨガも良いが、学生という若いボランティアになる資源があり、すぐに来られる教員がいるので、それを活用しない手はない。大学との連携も柱のひとつに据えていただきたい。

○川上会長

藤本委員から話があった4大学の連携のプラットフォームは札幌学院大学に事務局があり、商工会議所も共に連携する形態を作っている。去年は市長も参加し、生涯活躍のまちの話をさせていただいた。4大学からも協力するという話を具体的にいただいている。生涯活躍のまちは市全体の構想であり、事業者と一緒に事業を進める上で、今後は大学との連携を強く盛込んでいかなければならない。

○三ツ井委員

無料送迎バスを使い、ココルクえべつや大学を回る研修旅行を企画し、自治会に提案していただくと、レクリエーションに使える良いと思うので、検討していただきたい。

○川上会長

他に質問、意見はないか。

○森田委員

現状、このコロナ禍でこれから入所や交流が深まる中で危惧している部分があると思う。

ココルクえべつの中での医者や看護師の人数や配置などの医療体制はどうなっているのか。

○生涯活躍のまち開設準備室 小林副室長

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、看護小規模多機能型居宅介護事業所に関しては、看護師の配置が必須となっており、それに合わせて20名程度の看護師の配置を予定している。また、看護小規模多機能居宅事業所では、管理者に看護師を予定しており、現在札幌の事業所で準備をしている。

併せて、医療機関との連携は今後構築しなければならないと思っている。現段階で契約締結までには至っていないが、江別市立病院に協力医療機関として準備していただいている。江別市、特に大麻の医療機関と連携を図りながら行っていきたいと思っている。

○森田委員

医師の配置はどうなっているのか。

○生涯活躍のまち開設準備室 小林副室長

介護老人保健施設の施設長は医師になる。すでに内定しており、9月1日の開設に向けて準備を進めている。

また、特別養護老人ホームについては、嘱託医を配置しなければならないので、その準備も進めている。

○川上会長

他に質問、意見はないか。

○田原委員

生涯活躍のまちの観点から高齢者の就労支援があるが、社会福祉協議会では市の受託事業として「くらしサポートセンター」を開所して、専門の職員3名が対応している。若い方から高齢者まで江別市で住みながら働きたいという相談が多いので、職員が就労につながるように支援している。将来的にコーディネーターと社会福祉協議会が連携していけると良いと思う。

○川上会長

生涯活躍のまち事業は江別市全体の事業になる。市全体の中でそのような連携が必要であると認識している。関連する役所内の部局、介護事業団の部署と連携しながら今後の対応について検討していきたいと考えている。

他に質問、意見はないか。

○各委員

(なし)

#### 4 その他

○事務局

机上に本日説明した内容などを市民向けにまとめたパンフレットを配布しており、広報えべつ4月号に折込んで全世帯に配布する。

次回の協議会は概ね拠点施設が全部オープンとなる7月から8月の開催を予定している。

#### 5 閉会